



自慢の農林水産品をバイヤーに売り込んだ食の國ぐいマッキング商談会。26日、福井市の福井商工会議所ビル

## 県産品販路拡大を

### 県が商談会 29団体売り込み

県内の農林水産品や食器などの販路拡大へ向けた「食の國ぐいマッキング商談会」が26日、福井市の福井商工会議所ビルで開かれた。29団体、6次産業化の支援を目的

に、県が毎年開いている。各生産者は、試作品や新作を中心に商品を展開した。食用バラなどを取り扱う「ゆめいく」（坂井市）は、米ぬかや規格外のコメを包装に詰め込んだ温冷枕を提案。電子レンジや冷蔵庫で手軽に

温めたり冷やしたりできる点や、環境にやさしいことなどを熱心にアピールしていた。このほか、梨ジュースや漬物類、ヨモギ茶など、趣向を凝らした一品が並んでいた。海外向け通販に出せる商品を探しに来たというバイヤーは「海外の人には、地域色のあるものの人気が高い。今回、は特徴的な商品が多く、参考になった」と話していた。商談会の前には、食総合プロデューサーの金丸弘美さんが講演した。地域資源を活用した、売れる商品づくりと販路開拓の全国での成功事例を紹介。会員制交流サイト（SNS）の普及により、いいものの情報をどこからでも発信、受信できるようになったことなどを背景に「都会に売り込みに行くより、地域資源を徹底的に集めた場所を地元につくる方が、売り上げを増やせる」と語った。（坂下享）